

5-2-5 人間環境学部の教育の特色とねらい

今、私たちが取り組むべき課題は、『持続可能な社会の制度と政策のあり方』を見出していくことです。ここで“持続可能性 (Sustainability)”という概念は、世代間衡平性 (Intergenerational Equity) または世代間責任 (Intergenerational Responsibility), すなわち, “将来世代がそのニーズを満足させる可能性を損なうことなしに, 現世代がそのニーズを満足させる”という性質を表すとされています。言い換えれば, 同時代を生きている地球上全ての人類にとって必要な『持続可能性』が求められていると同時に, 将来, 地球人口が 100 億人を突破してもなお有効な『持続可能性』でなければならないのです。

現代社会において必要なことは, 社会・文化・経済・政治・法律・自然・科学技術などが複合的に関連する領域において, 環境問題を総合的に把握・分析し, 人間と環境のあるべき関係を探求し, 有効な解決策を見出していくことです。環境汚染を技術的に除去・防止するような事後的で個別的な解決策では不十分であり, 『持続可能な社会』の構築を目標とした計画的で全体的な解決策が必要です。このためには, 社会・経済・政治・法律分野の環境関係の専門知識のみならず, 人文・自然科学分野の環境関係の基礎知識を有する社会科学系の環境の専門家を育成することが急務です。

21 世紀に生きる私たちには, 環境負荷の少ない, 持続可能な社会へ転換し, 環境保全と経済システムを両立させた社会の実現が求められています。人間環境学部は, 環境に関する人文・社会科学 (文科系) と自然科学 (理科系) の最新の研究に裏付けられた教育を学生に提供し, 人間と自然の共生を多面的に考えられる『環境人』を育てます。

『環境人』は, ①環境問題を自らの体験を通して考え, ②職場や市民生活において高い専門性を発揮し, ③人々の中でリーダーシップをもって行動し, 持続可能な社会の実現に貢献する人です。公的領域 (企業・自治体など) においては, 環境保全と両立する経済発展を目指して, ビジネス・技術・組織の変革に取り組みます。また, 私的領域 (市民生活など) においては, 環境に配慮した価値観を持ち, それに準じたライフスタイルを人々に提案し, 実践します。

人間環境学部は, 様々な地域の人々と協力しながら, 産学官民の各領域において, 持続可能な社会の実現に貢献できる人を育てます。

1 年次には, 全学共通の「修道スタンダード科目」を履修しますが, このうち修大基礎講座や初年次セミナーでは, 全学共通の学修内容に加えて人間環境学部独自の観点や内容を加えて初年次教育を実施します。主専攻科目では, 1 年次から履修することができる「入門科目」において, 人間環境学部での学修を進めていくために必要な問題意識, 価値観, 考え方を養い, 基礎となる知識を人文科学, 社会科学, 自然科学の幅広い範囲から学ぶとともに, 読解や分析などの基礎能力を習得します。これらの科目での学修は, 次のレベルの基礎科目への橋渡しとなるものですから, 興味・関心に合わせて, できるだけ多くの科目を履修することが望まれます。そして 2 年次からは人間環境学部での学修の中心となる「基礎科目」を履修します。この科目群には, 環境政策, 環境経営, 環境経済, 環境教育, 地域環境, 科学技術, 人文科学の 7 つの分野があります。次のレベルの「発展科目」と密接に関連しているので, 履修した「入門科目」の内容や自らの興味・関心, さらには将来の進路なども視野に入れて履修する分野, 科目を選択することが必要です。3 年次以降では「入門科目」, 「基礎科目」の学修を土台として, それらの内容をさらに深化・発展させ, 専門・応用的な知識を習得するため, 人間環境学部カリキュラムの最上位に位置する「発展科目」を置いています。「発展科目」の各科目を履修

するにあたっては、履修前提科目が設定されており、当該科目を履修するためには、あらかじめそれぞれ指定された履修前提科目を履修しておくことが必要となります。

また、在学中のより早い時点から将来の職業に対する意識を明確化し、学修もそれに合わせて主体的に取り組むことができるように、2つの専門コース「環境マネジメントコース」と「環境教育コース」を設けました。コース制は、将来どのような分野で働きたいかを意識しながら学修できるように考慮したいわば、履修モデルに近いものです。コースは、環境経営分野を中心に、環境政策、環境経済分野の科目から構成される「環境マネジメントコース」、そして環境教育分野を中心に、地域環境、人文科学、科学技術の分野にまたがって構成する「環境教育コース」の2つを設定しています。

また地球環境問題の進行や、グローバル化、政府の政策展開、企業活動の発展等にも的確に対応できる能力を身につけるためには、人間環境学の深い専門知識に加えて幅広い教養が必要とされます。人間環境学部では共通教育科目にも科目を提供するとともに、他の学部・学科・分野の主専攻科目を体系的に学ぶことのできる副専攻制度も設けています。

さらに人間環境学部では現場体験からの学びも重視しています。そのため、環境問題解決に向けた実践力、スキルの修得をめざした実習やプロジェクト、また企業や団体に実際の業務に従事するインターンシップなどから構成される「フィールド科目」を設けています。また本学の教育目標の一つである『地球的視野を持って地域社会の発展に貢献できる人材』の養成の実現を目的として「グローバル科目」が設置されています。留学支援教育や中国、韓国、ベトナム、ドイツ、イギリス、アメリカ、ニュージーランドでの語学研修も行われており、多様な価値観や異文化を理解できるグローバルな感覚を身につけた人材を育成するための科目・交換留学制度・海外セミナーの充実を図っています。

これらに加えて、人間環境学部ではきめ細かな少人数教育を行うために、2年次からのプレ・ゼミナール、3年次の環境ゼミナール、そして卒業研究へとつながる「ゼミナール科目」を設置しています。「ゼミナール科目」は少人数を対象とし、講義科目で得た知識を深化するとともに、興味のあるテーマを探究します。「入門科目」・「基礎科目」・「発展科目」および「ゼミナール科目」の段階的履修を通して、環境問題を自らの体験を通して考え、職場や市民生活において高い専門性を発揮し、人々の中でリーダーシップをもって行動し、持続可能な社会の実現に貢献する『環境人』を養成することを目標としています。